

【授業実践の振り返り】 国語（光村）5年 「すいせんします」

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
1	学習課題をつかむ	単元目標「ここに旅行に行ってみてコンテスト」で No1 になろう！ <本時のめあて> 説得力のあるスピーチの構成や、表現を考えよう 1) めあてを知る、学習計画を立てる (P190)こ 2) ディズニーランドの文例を使用し、実際に教員のスピーチを聞いて、紹介（どんな場所）の仕方や優れたところを学級で話し合う。すいせんカードを模造紙に書き、板書したものに答えを書き出していく。(ブレインストーミング) 3) 教科書 P191,を読み、スピーチの構成について考える。 →すいせん理由を明確にしていると、説得力があることを振り返る。(P191)	・授業活動案には書かれていないが、まず始めにデジタル教科書のモデルスピーチを見せたことで、これからどんなこと（＝説得力のあるスピーチをする）を学習していくのかが、イメージしやすく、子ども達の動機づけに繋がった。 文例を見せるだけでなく、実際の動画を視覚的に見せる方が、効果的であった。 ・単元の最後に「コンテスト形式」のスピーチ発表会にしたため、子ども達の競争心がかきたてられ、その後の活動に積極的に取り組んでいた。	・ディズニーランドの文例を見せず、聞かせた後に、その文例について、どんな「スピーチの工夫」が見られるか、ペアやグループで話合わせれば、更に良かった。 （モデルスピーチを見せること、ブレインストームの時間をより長くすること）	・普通の「スピーチ発表」ではなく、順位のつく「コンテスト形式」であったため、普段は消極的な子ども達でさえも、「勝ちたい！」とすべての活動に主体的に取り組めた。
	家庭学習課題	すいせんカードに記入をする、資料を見つける	・すいせんカードの「予想される反論」を考えさせることができて良かった。		

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
2	自分のすいせんする事柄について考え、その理由を明確にする。	<本時のめあて> すいせんしたい場所（旅行にいくのにオススメのスポット）に合う、説得力のあるスピーチを考えよう。 1) 1校時の学習の振り返りを振り返りシートを使って行う。 2) すいせんカードをもとに、すいせんする理由をはっきりさせ、整理する。 3) 振り返りシートを使って学習を振り返る。	・スピーチ発表をする前に、まずは「スピーチメモ」を活用し、説得力のあるスピーチの内容を書かせたのが良かった。 ・「スピーチメモ」の裏の「スピーチお助けメモ」があることで、子ども達にとっては随分と書きやすかったようだ。	・児童の日本語の発達レベルに合わせて複数のワークシートを作ったので、この時限に使用できるワークシートの種類が多かった。そのため書かせることに時間がかかり、1時間では収まらなかった。 ・ワークシート「スピーチ原稿」はなくして、「スピーチメモ」だけで十分であった。メモ程度にとどまらず、文章で書く子が多く見受けられたのは、事前にスピーチの文例を見ていたからだと思われる。	・宿題の「すいせんカード」を元に、一生懸命に「スピーチメモ」を書いていた。 ・スピーチ発表が不安な子どもほど、「スピーチメモ」をしっかりと書いて準備をしていた。

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
3	スピーチメモに基づいたスピーチの工夫を考える。	<本時のめあて> 説得力のあるスピーチの工夫について考え、スピーチの練習をしよう。 1) デジタル教科書のビデオを見ながら効果的なスピーチの工夫について話し合う。(話す速さ、声の強弱による強調、資料の使い方、間の取り方など) 2) 「説得力のある」スピーチを意識して練習する。 3) ペアになり発表を聞き合ったり互いに意見を交換したりする。 4) 振り返りシートを使って学習を振り返る。	・ペアワークの発表の練習で、一人の発表が終わるたびに、聞き手より良かったところと工夫できるところを簡潔に伝えさせた。 例) 「資料は手に持った方がいいよ。」と言われた子どもは、次の発表の時にそのアドバイスを忠実に守り、発表が劇的に上達していた。同時にアドバイスをした子どもも同じ点で上達していた。 ↓ 『子ども同士による学び合い・高め合い』 ・それまでの活動を通し、スピーチにおいて注目するポイントも学んだ。更に、動画や教師のモデルスピーチを見ることで、子ども達のスピーチ力が上がった。 = 百聞は一見に如かず	・ペアでのスピーチ練習の時は、次の流れですと良いと思う。 ① 前後で向かう。 ② 左右で向き合う。(隣同士での練習では、前を向いたまま話し出すペアもあった。前後のペアで先に練習することで、しっかり相手に向き合うことが身に付く) ③ 4人程度のグループ内で、発表者を立たせて行う。	・第1時限から「トーナメントに勝ちたい!」と意欲を持っていたため、このスピーチ練習にも積極的に取り組んでいた。始めは「(勝たなくても) どうでもいい。」と言っていた子ども達でも、授業が進むにつれて「やっぱり勝ちたい!」と意欲が増していたように見えた。その気持ちの変化が、学習への取り組み姿勢に良い影響を与えていた。
	家庭学習課題	「説得力のあるスピーチ」にするために、「スピーチの工夫」を意識して練習を行う。	・参観日にスピーチ発表を実施したため、それに向けて保護者と共にしっかりと練習をしていた。		

時 限	内 容	活 動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
4	1) スピーチをする。 2) 友達のスピーチを聞く。 3) 学習を振り返る	<本時のめあて> 「説得力のあるスピーチ」を意識して、発表したり友だちの発表を聞いたりしよう。 1) スピーチの工夫について確認する。 2) 1人ずつ発表する。 聞くひとは「オーディエンスカード」に発表者のすいせんについて評価を書き留める。(三段階評価) 3) 友達のスピーチについて印象に残ったことを伝え合う。 4) 振り返りシートを使って自己評価をする。	・「オーディエンスカード」を記入しながら聞いていたことで、友だちの発表の良いところを探そうと真面目に集中して聞いていた。 ・トーナメント形式で投票する目的があったため、お互いに真剣に発表を聞き合っていた。 ・3時限目のペア練習で与え合ったアドバイスが友だちのスピーチの中で生かされているか、熱心に聞いていた。	・全員がスピーチメモを見ずに発表できるように、指導・練習をさせると良い。(大半は原稿を見ていた。) ・将来の役に立つような「プレゼンテーション能力」を身に付けさせるために、もっとスピーチ練習を取り入れると良かった。	・資料の見せ方が工夫されていて、とても効果的だった。 ・発表中に笑顔が多かった。 ・パワーポイントを使用して発表していた子ども達もいた。(現地校でなれている) ・原稿をまったく持たずに発表をしていた子ども達もいた。

●児童のコメント

- ・スピーチをする時には、資料を出すと言得力がある」と、文例から分かった。
- ・作文を書くことには慣れているが、メモを取ることに慣れていないので、「メモの取り方」が分からなかった。
- ・即興スピーチをすることは不安だったり、間違えたりしたら恥ずかしいと思った。
- ・スピーチをする時に、始めは緊張したが、たくさん練習をしたので安心して臨めた。
- ・原稿なしでスピーチをするのは難しいので、ワークシートがあって助かった。
- ・（最後の発表が）トーナメント形式なので、楽しかった。
- ・スピーチの練習はしたが、やはり本番でも緊張した。
- ・（単元全体の学習を通して、他の単元と比べて）自分で考えることが多かったので、退屈しなかった。

●その他

- ・すいせんスピーチの投票には、保護者の方にも参加していただけだったので、優勝した児童が勧めた旅先に、1 家族早速次の日に行ったようだ。こう考えてみると、優勝した児童のスピーチは成功であったと考えられる。